

# 日本周辺国際魚類資源調査

(要約)

柳谷 智

## 目 的

国連海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを完備するための調査を行う。

## 材料と方法

### 1 漁獲状況調査

漁協等で水揚げ伝票から漁獲月日、漁法、銘柄、体重等のデータを収集した。

#### (1) マグロ類

日本海 小泊漁協、新深浦町漁協岩崎支所、深浦漁協

津軽海峡 三厩村漁協

太平洋 尻労漁協、六ヶ所村海水漁協、八戸みなと漁協、(株)八戸魚市場

本県沿岸で漁獲されるマグロ類のほとんどはクロマグロなのでクロマグロの漁獲量を調べた。また、2010年から調査対象となった小泊の以前の漁獲量は、青森県海面漁業に関する調査結果報告書(属地、マグロとカジキで集計)から引用した。

#### (2) サメ類

八戸みなと漁協、(株)八戸魚市場

### 2 生物測定調査

クロマグロについて、深浦漁協、三厩村漁協にて漁獲状況調査に加え、1尾当たりの体重データ等を収集した。

## 結 果

### 1 漁獲状況調査

#### (1) マグロ類

調査対象7地区全体では395tと前年(623t)の63%だった。海域別にみると、日本海(岩崎、深浦、小泊)では262tと前年(471t)の56%、津軽海峡(三厩)では77tと前年(93t)の83%、太平洋(尻労、六ヶ所、八戸)では56tと前年(60t)の93%であった。(図1)

月別にみると、日本海(岩崎、深浦、小泊)、太平洋(尻労、六ヶ所、八戸)では6月、津軽海峡(三厩)では10月にピークがあった。(図2)。

#### (2) サメ類

八戸に水揚げされたサメ類(90%以上がアブラツノザメ)の漁獲量は360tと前年(621t)の58.0%であった(図3)。サメ類の月別漁獲量をみると1月に105tと最も漁獲され、秋から冬に漁獲が多かった(図4)。

### 2 生物測定調査

津軽海峡(三厩)において漁獲されたクロマグロ全ての尾叉長測定結果をみると尾叉長のモードは1月170cm~185cm、8月165~170cm、9~12月125~135cmで、9月以降小型化していた(図5)。

発表誌:平成22年度日本周辺国際魚類資源調査報告書、独立行政法人水産総合研究センター、2011年3月

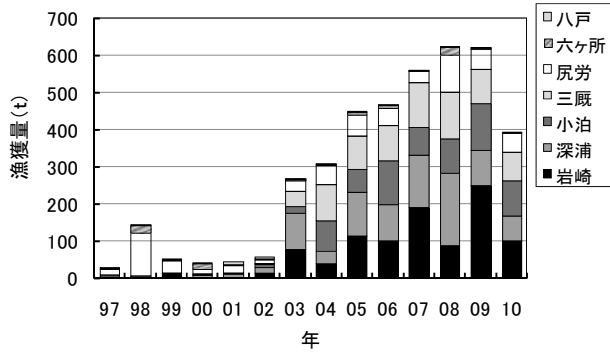


図1 クロマグロの地区別年別漁獲量

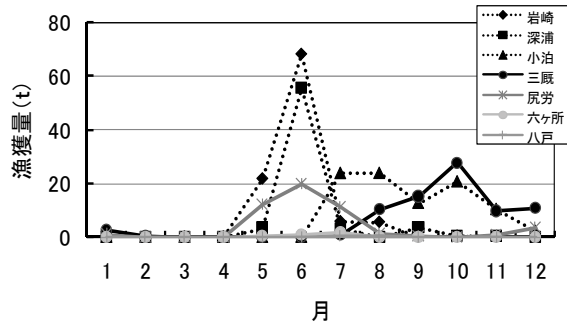


図2 クロマグロの地区別月別漁獲量

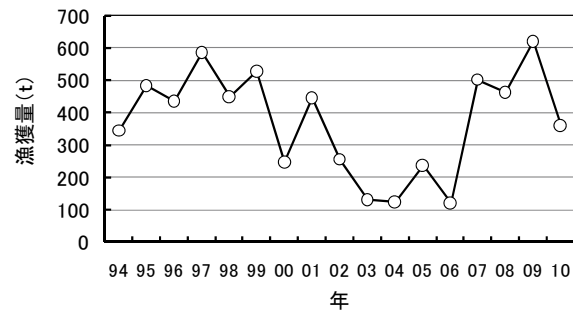


図3 サメ類の年別漁獲量

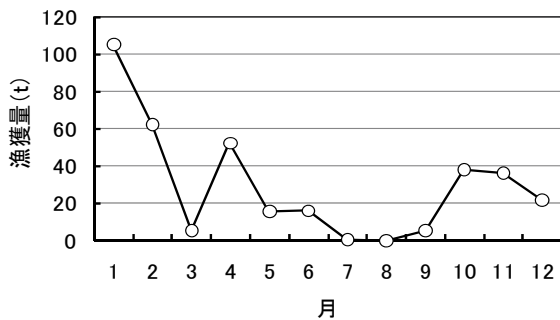


図4 サメ類の月別漁獲量

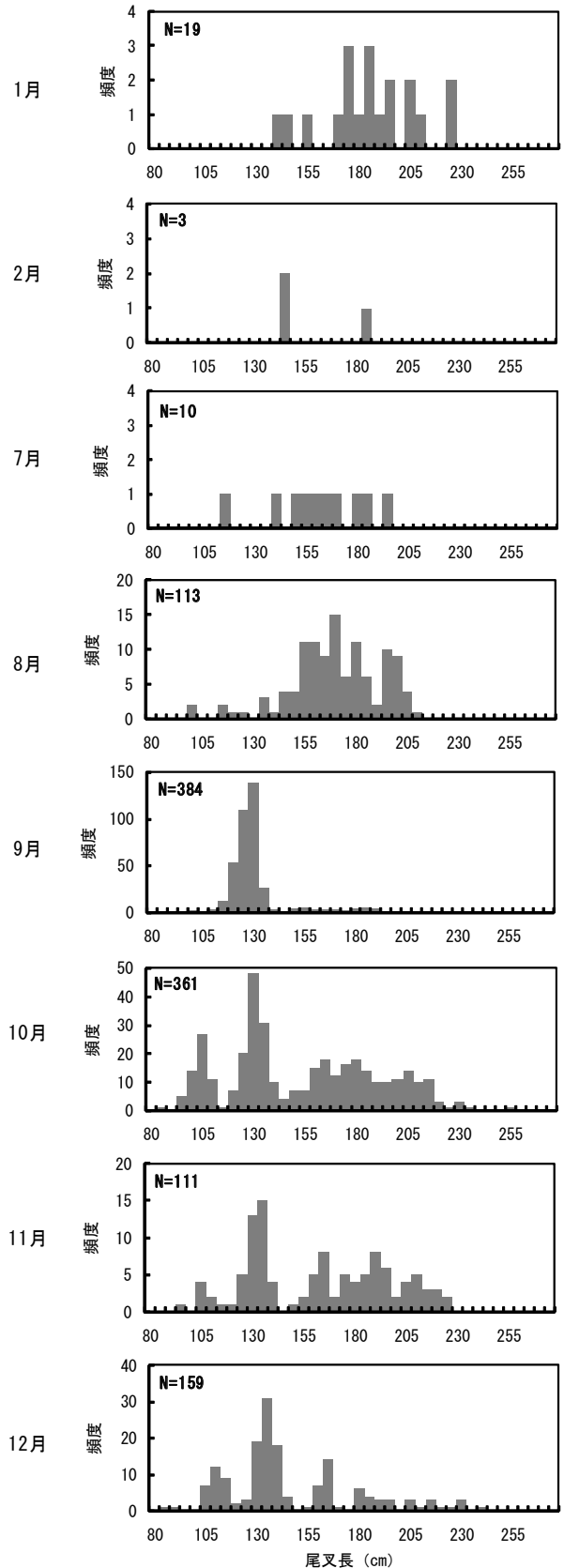


図5 三厩の月別クロマグロ尾叉長組成

\* 3月~6月は漁獲なし。